



## 学級・学校の「他人肯定力」を高めよう!

最近、子どもたちの中で、心ない言葉を友達に発してしまい、心を痛めたり、お互いの関係性が崩れたりしてしまうことがありました。そのような折に、今日の全校朝の会で、お笑い芸人でありプロ野球・独立リーグの選手でもある高岸宏行さんの話をしました。

高岸さんがプロ野球の試合で初めて登板した際、ホームランを打たれた相手に向かって拍手をしました。その時の動画を子どもたちに見せた後、

「彼の行為は、プロの選手としてよいでしょうか、よくないでしょうか」

と問いかけてみました。これについては、次のような様々な意見があると思います。

### よくないと思う

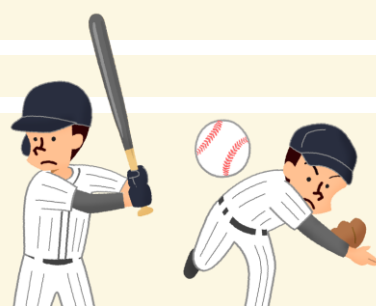
- 真剣勝負なのに、敵に拍手するのはおかしい

- 負けを認めたみたいで嫌だ

### よいと思う

- 相手のいいところを素直に認めるのは素晴らしい

- お互いに全力でやっているのだから、打たれたらほめてもいい



高木さんの拍手には意味があります。高岸さんは高校野球の名門校を卒業後、大学野球で活躍してプロ野球選手になるという目標を持っていました。しかし、大学野球で怪我をして野球の道を断念したとき、「今までいろいろな人にお世話になったから、残りの人生は自分が応援する側になろう」とお笑い芸人になったそうです。高岸さんは、人を積極的に認める「他人肯定力」が高いから、相手に拍手をしたのでしょうね。みなさんは「他人肯定」をやっていますか?

「あなたの学級の他人肯定力は、5段階評価でどれくらいですか?」と問いか

け、心の中で振り返らせました。そして、お互いの良いところを認め合って、

学級、そして学校全体の他人肯定力を5にしていきましょう!と締め括りました。



## 理科に親しむコーナー

「理科離れ」という言葉があります。子どもたちが理科に関心を失い、理科という科目が嫌いになり、理系に進学しなくなることを言うようです。

今、日本では理科離れが問題となっていますが、理科を担当している先生が、メダカの卵や赤ちゃんを観察するコーナーや星座の学習コーナーを1階ホールに設けてくれました。身近に理科の対象に触れることができ、子どもたちの興味・関心が高まっています。